

平成18年12月5日  
統計部公表

## 平成18年産水陸稲の収穫量

(埼玉県)

- 水稲の作況指数は94、収穫量は17万3,400t -

### 【調査結果の概要】

- 1 平成18年産水陸稲の作付面積は3万7,300ha、収穫量は17万3,600tであった。
- 2 水稲の収穫量は17万3,400tで、前年産に比べ1万900t(6%)減少した。
- 3 水稲の被害量は、2万4,900t、被害率は13.5%で平年に比べ4.7ポイント上回った。
- 4 陸稲の収穫量は225tで、前年産に比べ40t(15%)減少した。

水稲の作柄表示地帯別作況指数



作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率である。

本統計結果で使用している統計表は、以下のアドレスからデータとしてご利用いただけます。  
【[http://www.kanto.maff.go.jp/toukei/2006data/1205suitou\\_s/suitou-shukaku\\_s.xls](http://www.kanto.maff.go.jp/toukei/2006data/1205suitou_s/suitou-shukaku_s.xls)】  
本統計の目的などは、【調査の仕様】P7に掲載しています。

## 【解 説】

### 1 作柄概況

#### (1) 水 稲

全もみ数は、穂数が「少ない」ことから、1穂当たりもみ数は「多い」ものの、平年に比べ「やや少ない」となった。これは、日照不足等の影響である。

登熟は、日照不足等の影響が比較的少なかった東部においては、「平年並み」となった。日照不足の影響が大きく、9月下旬以降の高温で枯れ上がりが進んだ西部は「やや不良」となった。

このことから、作況指数94、10a当たり収量は466kgであった。

なお、作柄表示地帯別の作況指数は、東部97、西部89であった。

#### (2) 陸 稲

は種は、前年並みに行われ、発芽もおおむね良好であった。

生育は、日照不足であったものの、気温が高めに推移したことや、適度に降雨もあったことから、おおむね順調で登熟も良好であった。

このことから10a当たり収量は199kgであった。

### 2 水稲の被害状況

#### (1) 気象被害

5月中旬から7月の日照時間が少なかったことにより、分けつが抑制され穂数が減少した。特に7月の日照時間は平年の半分程度で、田植えの遅い西部の被害が大きかった。また、高温障害が発生し主に西部において登熟が抑制されたことから、全体として被害量は平年に比べ多かった。

#### (2) 病 害

いもち病、紋枯病の被害が発生した。また、褐変病が発生し被害程度の高いほ場もみられたが、全体として被害量は平年並みであった。

#### (3) 虫 害

ニカメイチュウ、ウンカの被害量は平年並み、フタオビコヤガは発生がやや多く、全体として被害量は平年に比べ多かった。

#### (4) その他被害

山間地域で獣害（イノシシ）が発生し、県内全域においては鳥害の発生がみられた。

## 【統計表】

1 水陸稲の収穫量

区 分	水 陸 稲 計		水 稲				
	作付面積	収 穫 量	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	作況指数	10 a 当たり 平年収量
	ha	t	ha	kg	t		kg
県 計	37 300	173 600	37 200	466	173 400	94	495
東 部	24 600	120 300	24 500	489	120 100	97	506
西 部	12 700	53 200	12 700	420	53 200	89	474

注：作付面積は、子実用作付面積である。

## 2 水稲の収穫量

区分	作付面積	10a当たり 収	10a当たり り量	収穫量	作況指数	10a当たり 平年収量	前年産との比較			
							作付面積		収穫量	
							対差	対比	対差	対比
県計	ha 37 200	kg 466	t 173 400	94	kg 495	ha 100	% 100	t 10 900	% 94	
東部	24 500	489	120 100	97	506	100	100	4 100	97	
西部	12 700	420	53 200	89	474	0	100	7 000	88	

## 3 陸稲の収穫量

区分	作付面積	10a当たり 収	10a当たり り量	収穫量	前年産との比較			
					作付面積		収穫量	
					対差	対比	対差	対比
県計	ha 113	kg 199	t 225	13	% 90	t 40	% 85	

## 4 水稲の被害面積及び被害量

区分	被害面積	被害量	被害率		
			本年	対平年差	対前年差
総数	ha 123 200	t 24 900	% 13.5	ポイント 4.7	ポイント 4.9
うち、気象被害計	61 400	14 900	8.1	4.5	3.2
風水害	11 500	2 810	1.5	0.2	0.5
干害	-	-	-	0.4	0.0
冷害	-	-	-	8.6	-
日照不足	37 200	10 300	5.6	...	2.8
高温障害	12 600	1 730	0.9	...	0.9
その他	76	92	0.0	...	0.0
うち、病害計	29 500	7 390	4.0	0.2	1.9
いもち病	4 950	2 000	1.1	0.2	0.6
紋枯病	11 500	2 180	1.2	0.4	0.3
その他	13 000	3 210	1.7	0.4	1.6
うち、虫害計	30 300	2 470	1.3	0.3	0.2
ニカメイチュウ	2 550	230	0.1	0.1	0.1
ウンカ	9 790	999	0.5	0.0	0.1
カメムシ	1 330	80	0.0	...	0.0
その他	16 600	1 160	0.6	...	0.3

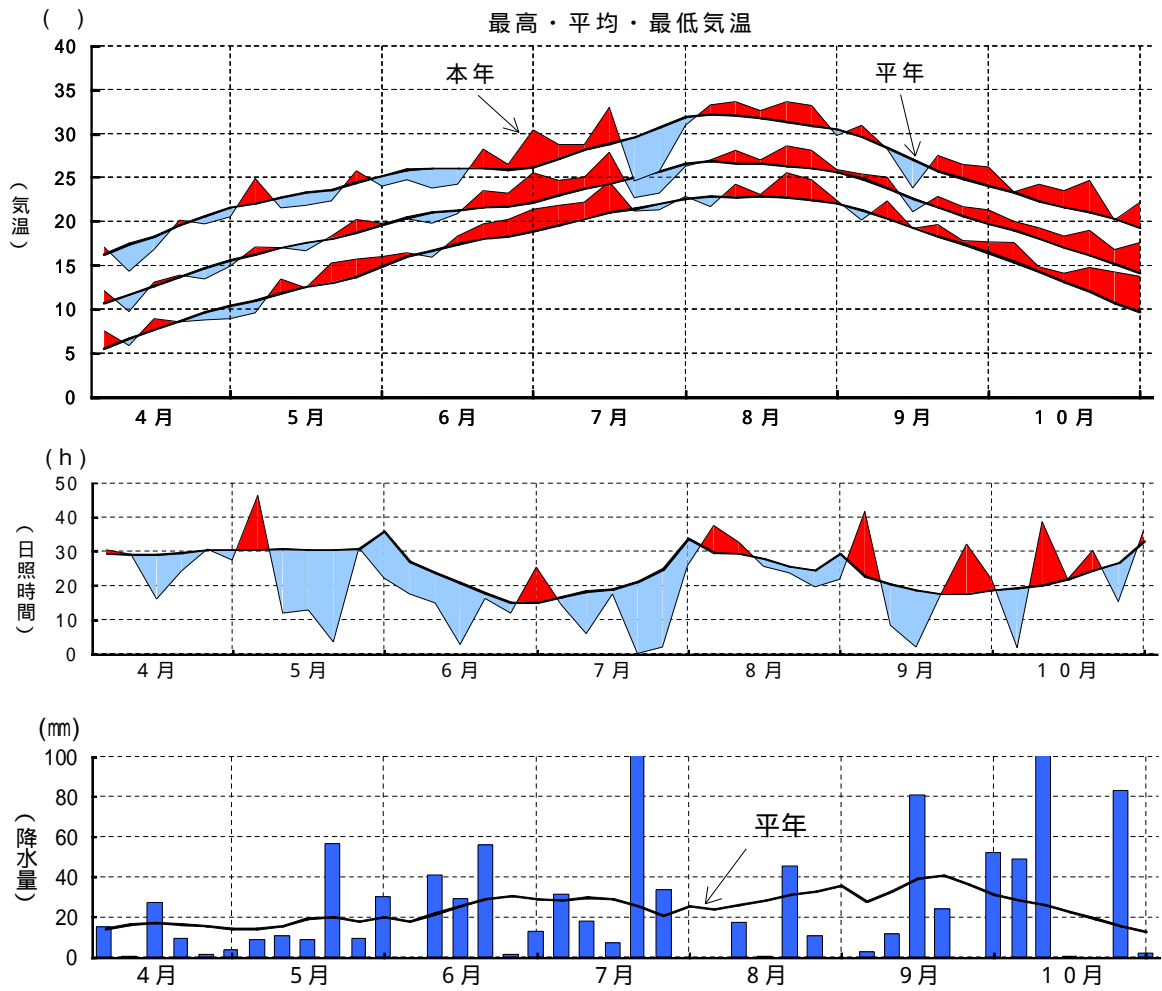
注：1 被害率は（被害量／平年収量）×100である。

2 総数の被害面積は被害種類の延べ面積である。

3 気象被害のうち「日照不足」、「高温障害」及び「その他」、虫害のうち「カメムシ」及び「その他」については、平成14年産より気象被害及び虫害について表章区分の見直しを行ったことから、平年差の比較をしていない。

【参考 1】

平成18年 半旬別の気象（熊谷）



(資料：熊谷地方気象台)

【参考 2】

水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況

本調査における収穫量は、飯用に供し得る玄米の量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規定三等以上の品位を有し、かつ、ふるい目幅1.7mm以上に選別された玄米の重量としている。  
 農家等が選別に用いるふるい目幅は地域、品種等により異なるため、ふるい目幅別重量割合と該当目幅でふるった場合に得られる10a当たり収量の試算を示すと次のとおりである。  
 なお、重量割合の平均対差に用いた平均値は、直近5カ年の平均値である。

1 ふるい目幅別重量割合

単位 { 重量割合：％  
平均対差：ポイント

区分	合計	2.00mm以上	2.00mm未満 ～ 1.90mm以上	1.90mm未満 ～ 1.85mm以上	1.85mm未満 ～ 1.80mm以上	1.80mm未満 ～ 1.75mm以上	1.75mm未満 ～ 1.70mm以上	
		県・作柄表示地帯						
埼玉								
重量割合	本年値	100.0	54.1	32.6	5.7	4.1	2.1	1.4
	平均対差		5.2	3.0	1.1	0.6	0.1	0.4
東部								
重量割合	本年値	100.0	58.2	30.5	4.9	3.6	1.7	1.1
	平均対差		8.4	4.9	1.7	1.0	0.4	0.4
西部								
重量割合	本年値	100.0	46.5	36.3	7.3	5.0	2.8	2.1
	平均対差		0.6	0.2	0.1	0.2	0.4	0.3

2 選別ふるい目幅別10a当たり収量

単位：kg

区分	10a当たり 収量 (1.70mm選別)	2.00mm 選別	1.90mm 選別	1.85mm 選別	1.80mm 選別	1.75mm 選別	1.70mm 選別
県・作柄表示地帯							
埼玉	466	252	404	431	450	459	466
東部	489	285	434	458	475	484	489
西部	420	195	348	378	399	411	420

3 品種別のふるい目幅別重量割合

単位：％

区分	合計	2.00mm以上	2.00mm未満 ～ 1.90mm以上	1.90mm未満 ～ 1.85mm以上	1.85mm未満 ～ 1.80mm以上	1.80mm未満 ～ 1.75mm以上	1.75mm未満 ～ 1.70mm以上
		品種					
コシヒカリ	100.0	54.7	32.0	5.7	4.1	2.1	1.4
キヌヒカリ	100.0	52.7	31.0	6.5	5.0	2.8	2.0
彩のかがやき	100.0	56.4	33.6	4.7	2.9	1.4	1.0

【関連するデータ】

水稲（子実用）の年次別推移（埼玉県）

年 産	水 陸 稲 計		水 稲				
	作付面積	収 穫 量	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	作況指数	10 a 当たり 平 年 収 量
	ha	t	ha	kg	t		kg
昭 . 40	86 300	267 200	78 300	328	256 800	91	360
41	84 400	260 200	78 200	322	251 800	90	358
42	82 900	269 100	78 100	336	262 400	95	354
43	81 400	291 500	77 400	368	284 800	105	350
44	80 100	288 600	76 600	369	282 700	105	350
45	71 800	258 100	68 900	368	253 600	105	350
46	63 400	215 400	61 200	347	212 400	97	356
47	62 600	243 300	60 700	396	240 400	111	356
48	61 800	242 500	60 200	401	241 400	110	363
49	64 400	229 900	63 000	361	227 400	97	371
50	64 300	264 000	63 000	417	262 700	112	371
51	63 900	256 000	62 900	404	254 100	106	380
52	63 300	245 800	62 400	391	244 000	101	388
53	57 000	226 900	56 100	404	226 600	102	395
54	55 200	214 900	54 300	394	213 900	100	395
55	53 000	198 800	55 200	378	197 300	96	395
56	50 200	189 600	49 400	381	188 200	95	402
57	49 200	161 000	48 400	330	159 700	82	402
58	49 600	177 600	48 800	361	176 200	90	402
59	50 100	223 800	49 400	452	223 300	112	402
60	50 100	222 600	49 400	449	221 800	111	405
61	49 100	211 300	48 400	434	210 100	106	410
62	46 000	217 300	45 300	478	216 500	115	414
63	45 000	190 800	44 400	427	189 600	101	421
平 . 元	44 500	201 800	43 900	457	200 600	107	427
2	43 900	202 200	43 300	466	201 800	108	433
3	43 100	196 500	42 600	459	195 500	105	437
4	43 200	201 300	42 700	470	200 700	106	442
5	43 300	177 600	42 800	413	176 800	93	446
6	44 700	219 600	44 300	495	219 300	111	446
7	43 200	208 600	42 800	486	208 000	108	450
8	40 400	206 300	40 000	515	206 000	113	454
9	39 900	196 200	39 600	494	195 600	107	463
10	37 700	169 300	37 500	450	168 800	96	470
11	37 800	180 800	37 500	481	180 400	100	481
12	37 500	184 700	37 300	494	184 300	101	489
13	37 000	179 800	36 800	488	179 600	100	489
14	36 800	177 200	36 700	482	176 900	98	493
15	36 800	170 600	36 700	464	170 300	94	493
16	37 400	197 300	37 300	529	197 300	107	493
17	37 400	184 600	37 300	494	184 300	100	495
18	37 300	173 600	37 200	466	173 400	94	495

## 【調査の仕様】

### 1 調査目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び稲調査のうちの水陸稲の収穫量調査として実施し、水陸稲の作付面積、作柄状況、収穫量を明らかにすることにより、生産対策、技術指導等の農林水産行政推進のための基礎資料とすることを目的としている。

### 2 調査の対象

調査は、全国の各都道府県を対象に調査を行っている。  
なお、県内における作柄表示地帯の区分は以下のとおりである。

区分	市	町	村
東 部	さいたま市、川口市、鴻巣市、上尾市、草加市、蕨市、戸田市、鳩ヶ谷市、朝霞市、志木市、和光市、新座市、桶川市、北本市、伊奈町、行田市、加須市、羽生市、騎西町、北川辺町、大利根町、春日部市、越谷市、久喜市、八潮市、蓮田市、宮代町、白岡町、菖蒲町、三郷市、幸手市、吉川市、栗橋町、鷲宮町、杉戸町、松伏町		
西 部	川越市、所沢市、飯能市、狭山市、入間市、富士見市、ふじみ野市、坂戸市、鶴ヶ島市、日高市、三芳町、毛呂山町、越生町、東松山市、滑川町、嵐山町、小川町、ときがわ町、川島町、吉見町、鳩山町、秩父市、横瀬町、皆野町、長瀨町、小鹿野町、東秩父村、本庄市、美里町、神川町、上里町、熊谷市、深谷市、江南町、寄居町		

### 3 調査期日

#### (1) 作付面積調査

ア 水稲：7月15日現在

イ 陸稲：収穫期

#### (2) 収穫量調査

水陸稲：収穫期

### 4 調査方法

#### (1) 作付面積調査

ア 水稲：調査は、標本単位区に対する職員による実測調査及び巡回・見積りにより取りまとめた。

イ 陸稲：調査は、職員による関係団体に対する面接調査、巡回・見積りにより取りまとめた。

#### (2) 収穫量調査

ア 水稲：調査は、作況標本筆及び作況基準筆に対する職員による実測調査及び巡回・見積りにより取りまとめた。

イ 陸稲：調査は、職員による関係団体に対する面接調査、作況基準筆に対する実測調査及び巡回・見積りにより取りまとめた。

### 5 調査客体数

#### (1) 作付面積調査

ア 水稲

標本単位区：975単位区 巡回・見積り：71市町村

イ 陸稲

面接調査：80団体 巡回・見積り：71市町村

(2) 収穫量調査

ア 水稲

作況標本筆：180筆 作況基準筆：41筆 巡回・見積り：71市町村

イ 陸稲

面接調査：76団体 作況基準筆：4筆 巡回・見積り：71市町村

6 用語の解説

10a 当たり平年収量とは、作物の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a 当たり収量をいう。

被害面積とは、農作物に損傷を生じ、被害なかりせば収量（その被害が発生しなかったと仮定した場合にとれ得ると見込まれる収量）から減収した面積をいう。

被害量とは、農作物の栽培が開始されてから収納されるまでの期間に、災害等によって損傷を生じ、被害なかりせば収量（その被害が発生しなかったと仮定した場合にとれ得ると見込まれる収量）より減収した量をいう。

7 利用上の注意

(1) 統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがある。

原 数	6けた (10万)	5けた (万)	4けた (1 000)	3けた以下 (100)	
四捨五入するけた数 (下から)	2けた		1けた	四捨五入しない	
例	四捨五入する前	123 456	12 345	1 234	123
	四捨五入した数値	123 500	12 300	1 230	123

(2) 表中に用いた記号は、以下のとおりである。

- 「 - 」：事実のないもの
- 「 ... 」：事実不詳または調査を欠くもの
- 「 0 」：単位に満たないもの
- 「 」：減少したもの

本統計調査結果は、関東農政局ホームページ中の統計データに掲載しています。  
アドレス【<http://www.kanto.maff.go.jp/toukei/2006data/2006data.html>】  
又は、関東農政局トップページ 統計データ 平成18年度

問い合わせ先

本統計調査結果について

連絡先：関東農政局 統計部生産流通消費統計課  
生産統計第2係

電 話：(代表) 048 (600) 0600 内線3631  
(直通) 048 (740) 0588

担当者：風神・関口

農林水産統計全般について

連絡先：関東農政局 統計部 統計企画課 企画第2係

電 話：(代表) 048 (600) 0600 内線3613  
(直通) 048 (740) 0575